

五ヶ瀬川郷土愛を育むかわまちづくり

鶴田 和希¹・日野 裕二¹・長友 明人²

¹九州地方整備局 延岡河川国道事務所 河川管理課 (〒882-0803 宮崎県延岡市大貫町1丁目2889)

²九州地方整備局 延岡河川国道事務所 調査第一課 (〒882-0803 宮崎県延岡市大貫町1丁目2889)。

五ヶ瀬川・大瀬川に囲まれた川中地区で、平成25年(2013年)3月にかわまち支援制度登録を受け、自治体はもとより地域住民と一体となったかわまちづくりを展開しており、その結果「かわまち大賞」受賞に至った経緯、今後のかわまちづくりの取組や継続性について紹介する。

キーワード かわまちづくり、かわまち大賞、地域連携

1. 延岡市と五ヶ瀬川

五ヶ瀬川は、その源を宮崎県と熊本県の県境にそびえる宮崎県西臼杵郡五ヶ瀬町向坂山(標高 1,684m)に端を発し、多くの溪流と合流しながら高千穂溪谷を流下し、更に日之影川、綱ノ瀬川等の支流を合わせ延岡平野に入り、大瀬川を分派後、延岡市街地を貫流し河口付近にて祝子川、北川を合わせ、日向灘に注ぐ、幹川流路延長106km、流域面積1,820km²の一級河川です。

延岡市街地の中心部を五ヶ瀬川、大瀬川が貫流し、五ヶ瀬川に合流する祝子川、北川など幾筋もの川が流れる街並みから「水郷のべおか」とも称され、日頃から市民の憩いの空間として日常的に広く親しまれてきています。

延岡市では、東九州自動車道が2014年に開通するなど新たな時代を迎えており、人・物・情報等の更なる交流・連携が重要となっています。しかし、人口減少や地域経済の疲弊など、地方都市共通の問題を抱えており、地域の特性を活かした魅力あるまちづくりによる人口流出の阻止や地域活性化、観光客の誘致などが課題ともなっています。

また、大学を活かした産学官連による新産業の創出や、延岡市の特性であるアスリートタウンづくりの推進、歴史・文化的施設の活用による文化活動の活性化やそれらの観光資源を活かした特色ある観光メニューづくり、移住促進に向けた取組など、地域の特色を活かした交流連携のまちづくりを積極的に推進しているところです。



図ー1 五ヶ瀬川流域図



写真ー1 五ヶ瀬川航空写真

2. 五ヶ瀬川かわまちづくり

(1) かわまちづくりの概要

五ヶ瀬川かわまちづくりは、「延岡市と地域住民、国土交通省などの関係機関等との緊密な連携を図り、五ヶ瀬川らしさを活かした“まちづくり”を推進していく」ことを目的とし、五ヶ瀬川・大瀬川に囲まれる延岡市街地の川中地区を中心に新たな水辺空間の創出を目指し、2013年5月に「延岡の街の魅力と五ヶ瀬川の魅力をつなぐ」を基本理念として、「かわまちづくり支援制度」に登録されました。

対象区域である川中地区を「回遊できる散策路」「文化・自然活動ゾーン」「自然の恵み体験拠点」の3つの拠点に分け、拠点毎の活動計画・推進していくことにより拠点間の相乗効果を図り、ハード整備に連動したソフト施策を展開し、また整備後は地域住民や活動団体、自治体等と連携を深めた活動を継続してきているところです。

2012年10月にかわまちづくりの計画策定・承認組織である「五ヶ瀬川かわまちづくり検討会」を設立し、その下部組織である実践部隊「天下一五ヶ瀬かわまち創ろう会」による活動を推進・検証しながら、「都市・地域再生等利用区域」への指定、民間事業者との連携、新たなイベント企画実施による、にぎわいの創出など発展を

続けてきている点が、大きな特徴となっています。

(2) かわまちづくりにおける運営体制

2012 年 10 月に地域住民、学識者（杉尾哲宮崎大学名誉教授）、宮崎県、国土交通省、延岡市の連携のもと、「五ヶ瀬川かわまちづくり検討会」を立ち上げ、同検討会により「五ヶ瀬川かわまちづくり計画書」を策定し、2013 年 5 月には実践組織となる「天下一五ヶ瀬かわまち創ろう会」を設立しています。

創ろう会は、3つの拠点の特性を活かす部会を民間団体（NPO 法人五ヶ瀬川流域ネットワーク、NPO 法人コノハナロード延岡市民応援隊等）や地域住民、有識者、行政にて組織構成されています。

部会の位置づけとしては、イベントへの参画・協力等の実践活動を行いながら、より具体的な整備・利活用・維持管理等を検討しながら「天下一五ヶ瀬かわまちアクションプラン」を策定し、実践してきた活動結果をもとに更新を行いながら継続的な活動の推進を展開してきているのが特徴としてあげられます。

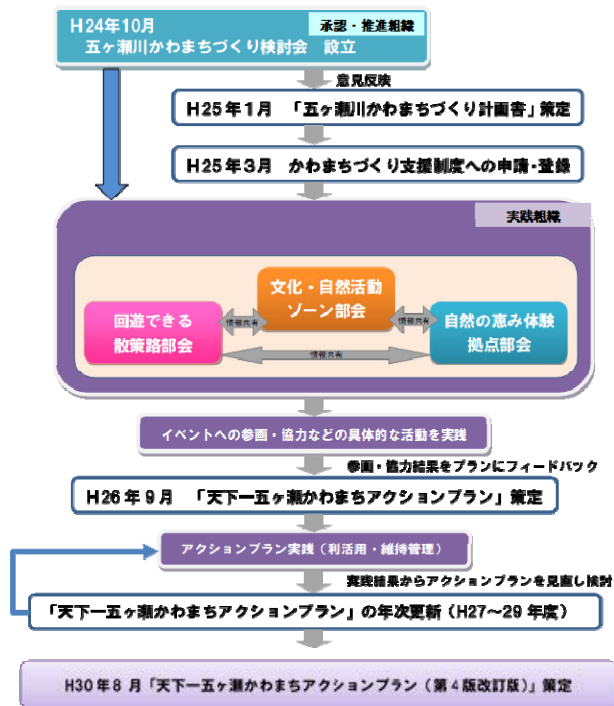


図-2 五ヶ瀬川かわまちづくり運営体制

(3) 持続されてきた活動・維持管理

a) 回遊できる散策路

2014年より、川中地区上流部で新たに整備された散策路を利用した「のべおかこのはなマラソン練習会」が企画継続され、この実践経験を踏まえ2018年11月に、2006年の第30回大会を最後に開催が途絶えていた「延岡わかあゆマラソン大会」が復活することとなりました。

五ヶ瀬川かわまちづくりの取り組みとして、マラソンコースとなる回遊できる散策路の拡幅改良や走りやすい環境の整備を図るとともに、マラソン大会当日の運営協力、高校生ボランティア募集に努めるほか、選手の休憩

場所として利用できる階段護岸などが整備され、マラソン大会以外にも当該地区の多目的広場で定期的に利用されているサッカースクール活動での利用や不定期に開催されるスポーツ大会の観戦スポットとして利用されています。



写真-2 わかあゆマラソン大会

そのほか、周遊散策路内に位置する歴史的治水施設「畳堤」や「水神様」などの歴史的遺構を元にした啓発活動も行われています。

特に畳堤は全国で3箇所にしかな残存していない貴重な施設であることから、過去の畳堤の教えや郷土愛・歴史文化を次世代に繋げていくとともに、広く畳堤を周知する事を目的に、畳堤の常設展示、記念碑の建立や、畳堤に絵画を差し込み展示する「水辺の青空美術館」として2019年より開催されるなど、散策利用者の増加や防災面への市民の関心向上などに寄与しているところです。



写真-3 畳堤防災イベントによる啓発活動



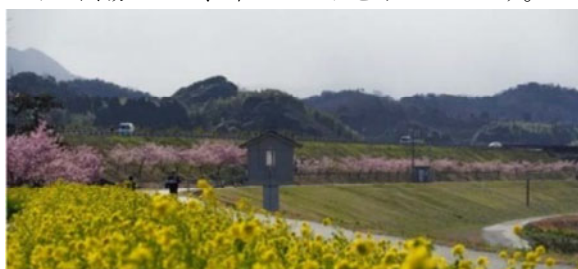
写真-4 水辺の青空美術館

b) 文化・自然活動ゾーン

『故郷延岡に思返しをしたい・・・』その思いを河津桜に寄せて、NPO法人コノハナロード延岡市民応援隊（旧名称：天下一ひむか桜の会）は2009年7月に誕生し、それ以降、五ヶ瀬川堤防沿いに菜の花や河津桜300本の苗を植樹し、広大な敷地の維持管理や桜と菜の花で美しい花の河川空間づくりを進めてきており、今では自然豊かな延岡市内の貴重なオープンスペースとなっています。

近年の東九州自動車道の全線開通に伴って観光・流通などの活性化が期待され、延岡インターチェンジから近く、市の玄関口ともなる箇所、日々維持管理が成された河川空間は延岡市民はもとより市を訪れた観光客の目を楽しませる憩いの場となっています。

また、応援隊の活動により、障害を持たれる方々や高齢者、多くの子供達などに楽しめる空間づくりがなされ、現在では、延岡市早春の観光イベント「延岡花物語」のメイン会場として、年々広がりを見せています。



写真－５ 五ヶ瀬川右岸の河津桜と菜の花



写真－６ 多くの観光客が訪れる延岡花物語

美しい憩いの空間を提供すると同時に、各種観光イベントを開催し、地域の活性化やこれらの事業を通じて、ボランティアスタッフの方々の生きがい、子どもたちの郷土愛の育み、また、河川協力団体として2019年3月に指定され河川区域内での外来種等の駆除、河川の除草・清掃活動、環境学習を実施して、河川環境の保全向上と地域住民の河川への愛着・美化意識の啓発活動を併せて行うなど活動の場を広げています。

また、郷土に誇りを持つ次世代の担い手育成のために地元小中学生の参加によるコットン（綿花）ロード事業や花壇の植栽事業を実施し、収穫したコットンボールや種を修学旅行の際に延岡を紹介する際のツールとして、旅先で配布するなど、郷土教育としても実施されているところです。



写真－７ 小中学生のコットン収穫作業

このような地道な活動が実を結び、幅広く認知されることにより様々な活動に対する支援の輪が広がっており、地元のロータリークラブや企業を通じて、自走式草刈り機やトラクターの寄贈、刈草やゴミの処分についても収集業者のボランティアによる回収、そのほか団体・企業・個人からの河津桜の若木の寄贈も増えています。

市民の関心も高まり、日頃から手入れの行き届いていた河川空間でもあり、今まで目にする機会の多かったペットボトルといったポイ捨てによるゴミを目にする機会が減ったように感じています。



写真－８ ボランティア活動による維持管理

c) 自然の恵み体験拠点

大瀬川の河口からの5km地点に位置する当該箇所には、秋から冬にかけて300年以上の歴史を持つ延岡の秋の風物詩でもある「鮎やな」が架設されます。



写真－９ 鮎やな

2014年に策定された「延岡市観光振興ビジョン」において「鮎やな」は誘客のための市の重要な観光資源と

されており、水辺の賑わいづくりの拠点として、2016年に宮崎県下で初めて「都市・地域再生等利用区域」の指定を受けたことから、地元住民や活動団体により、利活用や維持管理を踏まえた整備プランを構築したうえで、河川敷地内での営業活動（オープンカフェ等）が図れる場として「かわまち交流館」、「かわまち交流広場」にバーベキュー広場の整備を行いました。



写真10 かわまち交流館

施設の日常管理としては、市の指定管理者制度を活用し、施設の効率的な活用に取り組んでおり、五ヶ瀬川の水産資源である「鮎やな」でとれた鮎を使った料理の提供や散策路等と連動したイベントの開催など、相乗効果を図りつつ、「かわまちづくり」を一体として促進しています。

新たな取組として、2020年11月にはコロナ禍での3密を避けてのイベントとして、高水敷に駐車し、車内から映画を見て楽しめる「ドライブインシアター」も行われるなど、色々と工夫しながら取り組んでいるところです。



写真11 大瀬川左岸5kのかわまち交流広場



図3 ドライブインシアター (2020年11月)

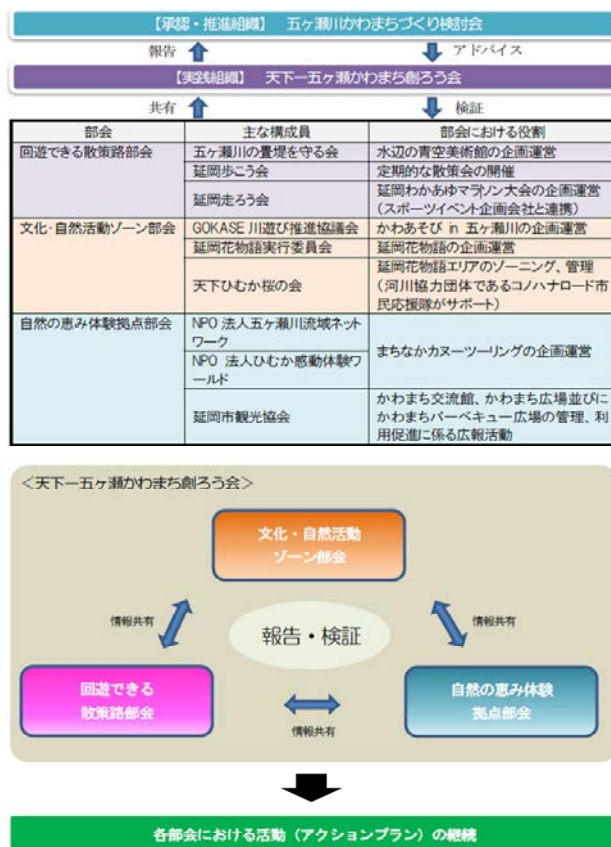


図4 五ヶ瀬川かわまちづくり運営関係図

五ヶ瀬川かわまちづくりでは、地域を主体とし各コンセプトを有する「文化・自然活動ゾーン部会」「回遊できる散策路部会」「自然の恵み体験拠点部会」毎に、具体的な利活用の企画や実践は各部会で行いながら、活動を継続してきています。

毎年各部会が集まり、各部会の活動状況を共有・検証を行うことで、お互いの活動を刺激し合いながら、活動推進の相乗効果を生んでいます。

その他、他部会との情報共有を行うことで、イベントに係るアイデア（義援金・助成金の獲得方法やボランティア協力要請等）を共有することができるなど、次年度以降における自組織の円滑な運営に繋がっているところです。

3. 五ヶ瀬川かわまちづくりの効果

(1) 利活用者の増加

2018年4月にオープンした「かわまち交流館」や「BBQ広場」に加え、継続的に開催されてきたイベントの影響もあり近年、利活用者が増加傾向にあります。

2020年は、コロナ禍でイベント中止や屋内施設の利用規制等もありましたが、その中でも「ドライブインシアター」や「かわまち交流館」前の高水敷での食事の提供など少しでも活用出来るように工夫しています。



写真-12 かわまち交流館食事棟の様子



写真-13 屋外での食事風景

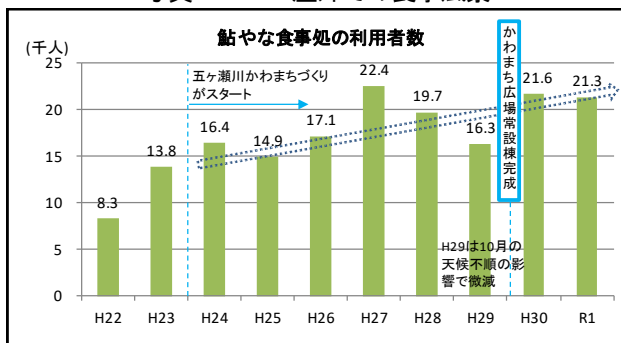


図-5 鮎やな食事処の利用者数
(出典: 延岡観光協会)

(2) 地域経済に与える影響

東九州道開通後のストロー現象、人口流出が懸念され住みやすく魅力的な街へしていくことが重要視されました。近年は県内・県外からの観光客数が一貫して増加傾向にあります。その要因の一つとなっているのが、「延岡花物語」「鮎やな」「カヌーツーリング」の入込客数の増加だといえます。そのため、五ヶ瀬川かわまちづくりの取り組みが地元経済の活性化にもある程度寄与しているものと推察されます。

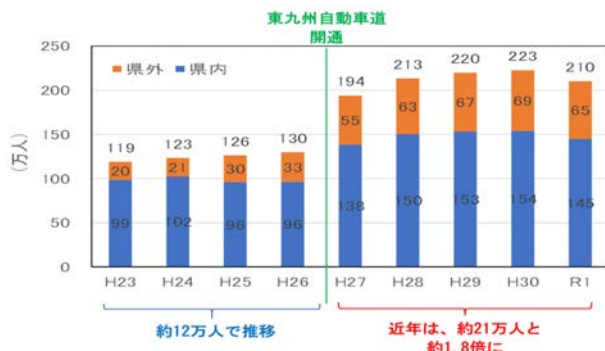


図-6 延岡市への観光入込客数
出典: 宮崎県観光入込客統計調査結果)

4. 今後の取り組み

現在、文化・自然活動ゾーンのコノハナロードにおいては春の河津桜や菜の花の開花時期が多くの方が訪れる時期となっていますが、河津桜等が開花する時期以外でも開花や見所を迎える花を植栽する事で一年を通して楽しむことができるように進めているところです。具体には、夏にはコットン（綿花）であったり、秋には彼岸花と四季を通じた活動が行われているところです。一方、五ヶ瀬川堤防沿いでもあることから、来訪される方々への駐車スペースも限られていることから、近隣にある公共施設の既存駐車場を利用できるよう調整するなど関係機関とも協力し、より多くの方の来訪が叶うよう取り組んでいるところです。

また、大瀬川左岸に位置する自然の恵み体験拠点の対岸の「恒富地区」を新たな拠点として整備できるよう検討を進めているところです。恒富地区にはすでにせせらぎ水路や高水敷に降りることができる階段や坂路があるものの、高水敷の利活用や水辺へのアクセス性が課題としてありました。



写真-14 かわまちづくり追加予定箇所
(恒富地区 大瀬川右岸地区)

検討していくにあたって、恒富地区では、水辺空間の創出をきっかけに、河川空間の活用・管理方法を地域と協力しながら、環境学習や水防学習の場として活用し、次世代を担う子供達の郷土愛が醸成され、地域の水辺空間として利活用される場所になる事を目的として 2018 年に「恒富こどもの水辺協議会」が立ち上がっていたことから、地域の方々を集めてワークショップ形式によって当該地区の整備にむけた夢・思いを自由に出し合い、将来の整備イメージや利活用、整備後の維持管理等における役割について意見交換をこれまで行ってきたところです。意見の中では、スポーツができる多目的な空間や利用するにあたっての駐車場、小さい子供でも安全に川で遊べる場所、車いす等が使えるスロープ等の安全性や多目的性を考慮した整備イメージがまとまったところで

整備に至った際には、イベントや河川の学習会等の開催をして、大人から子供まで誰もが川に親しめる空間と



5. かわまち大賞

結果として、2020 年 12 月には、地域活性化や賑わいの創出、300 年以上の歴史を誇る「鮎やな」や歴史的治水施設「畳堤」等といった地域の文化・歴史を次世代に継承する取組、日々の維持管理活動などが評価され、全国で5箇所目、九州では初となる「かわまち大賞」を受賞するに至りました。

6. おわりに

今後も、五ヶ瀬川かわまちづくりや他の河川のかわまちづくりにも興味を持つとともに、見識を深めてよりよい川・まちづくりなど、幅広く関心をもちながら日々研鑽していきたいと思います。